

第1回いじめ問題対策連絡協議会で得られた主な意見

これからの検討内容

支援が届きにくいケースと  
支援の観点

支援が届きにくい  
ケース

- ・ 保護者の協力が得られず介入できない。
- ・ 問題が見えていても、親が拒否した場合は支援ができない。
- ・ 支援の同意や協力が得られない保護者は、自ら周りに関わることが少ないため、問題の発覚が遅れ、重篤化する。
- ・ 子どもや家庭が支援を拒否している状況には、親も子どもも引きこもっている場合と親のみが拒否している場合がある。

支援が届きにくい  
ケースへの  
支援の観点

- ・ 支援が届きにくいケースでは、親と信頼関係を結ぶことが大事。
- ・ 支援を拒否している親の背景に目を向けると支援のニーズが見えてくる。
- ・ 虐待の一步手前のケースは支援のアプローチが難しいが、家庭に関与しやすい関係機関を中心に介入の機会を探っていく。
- ・ 支援が届きにくい家庭には、キーパーソンを見つけ橋渡しをしてもらい、支援者がつながっていく。
- ・ 親のみが支援を拒否しているケースは、子どもが学校や教員のことを好きになれば親も変わるのではないか。

【資料3-2】  
抜かりのない支援を実現するために強化すべき機能

【資料3-3】  
抜かりのない支援を実現するために学校が推進すべき内容

- ・ 教員・SC・SSWへのアンケート調査結果から得られた現状の課題と推進すべき内容について

【資料3-4~6】  
SNS等を活用した相談の実施状況

- ・ SNS相談事業の状況について先行実施している他自治体の取組と高知県の実施状況との比較

関係機関や地域との連携

関係機関の  
連携の大切さ

- ・ 地域力を借りることも重要。
- ・ 教員には見えない視点から地域の人に見てもらうことが有効。
- ・ 学校支援地域本部やコミュニティスクールは解決の糸口を探していける組織になり得る。
- ・ 関係機関がしっかり連携し、根気強く対応することが必要。
- ・ 企業の力を防犯に活用できないか。
- ・ 保育所や幼稚園などから学校へ情報をあげてもらったり学校と保護者の関係をつないでもらったりしたことはありがたかった。
- ・ 民生委員に情報をもらえれば、見守り以上の手伝いができるのではないか。

関係機関が  
連携する上での  
諸課題

- ・ 匿名で相談することはよい点もあるが、その情報を関係機関へつなぐことが難しい。匿名の相談ゆえの良さと関係機関へつなぐことの大切さのバランスについて検討することが必要。
- ・ 児童相談所での対応ケースは、重篤化した状況で通告されるケースが多い。重篤化する前での連絡が必要。
- ・ 虐待の定義について福祉と教育ではとらえ方が異なるので、共通言語化することが必要。
- ・ 民生委員に見守りを依頼したり情報をもらったりしているが、そこから先の学校の関わり方が難しい。
- ・ 地域の見守り体制はボランティアの高齢化もあり弱体化している。
- ・ いじめ事案の対応について心の教育センターはノウハウがあるが、そのノウハウを使えないケースがあった。